

## みたらい溪谷 と 洞川自然研究路

(写真 1)



蛇トンネル駐車場方面から出発し、みたらい溪谷入口の最初の吊り橋

(写真 2)



(写真 3)



暫くは、下り坂が続く

(写真 4)



植物観察でU氏の解説が始まる

※山行日 ----- 2020年10月27日(火)

※メンバー ----- 弥生班7名

※コース

- |                       |             |
|-----------------------|-------------|
| ・岩出図書館出発              | 6:30        |
| ・蛇トンネル駐車場<br>(山行)     | 8:10        |
| ・みたらい溪谷入口出発           | 8:15        |
| ・ひたらいの滝 休憩所           | 9:15~9:30   |
| ・みたらい溪谷入口到着<br>(車で移動) | 10:30       |
| ・洞川温泉センター駐車           | 10:45       |
| ・洞川自然研究路 入口           | 11:00       |
| ・面不動モノレール             | 11:10       |
| ・かりがね橋                | 11:30       |
| ・大原山展望台 昼食            | 11:50~12:30 |
| ・かじかの滝                | 13:30       |
| ・母公堂                  | 14:00       |
| ・洞川温泉センター駐車           | 14:50       |
| ・岩出図書館 到着             | 17:00       |

※季節も秋、絶好のハイキングシーズンとなりました。

紅葉時期には少し早いのですが、燃ゆる紅色に染まる山とダイナミックに滴る水しぶきの滝を求め、「みたらい峡谷」そして、「洞川自然研究路」を散策しました。

※「みたらい峡谷」編

- ・奈良県吉野郡天川村に広がる景勝地。大峯山山上ヶ岳を源とする山上川と近畿最高峰弥山・八経ヶ岳を源とする川迫川の合流地点付近をさし、ゴロゴロした巨岩の合間を縫って流れる川沿いに遊歩道が整備され、変化に富んだ溪谷美を満喫できるハイキングコースとして人気を集めています。

- ・今回は、蛇トンネル側の休憩所に駐車し、「みたらいの滝」までの往復コースである。

- ・地元を6時30分に出発し、2時間足らずで現地に到着。現地は肌寒く、みたらい峡谷入口の最初の吊り橋は露で滑りやすく、手すりを持ちこわごわと足を進めいく。

(写真 1)

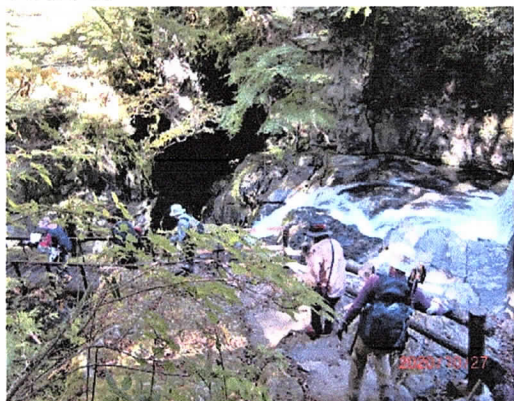
- ・行きは基本的に下りであり整備された階段で快適な遊歩道となっている。当然、帰りは登りとなり帰りの心配をするメンバーも-----。

(写真 2・3)

- ・途中、もみじや巨木そしてコケ類が群生し、休憩を交えて景観を楽しみます。

(写真 4)

(写真 5)



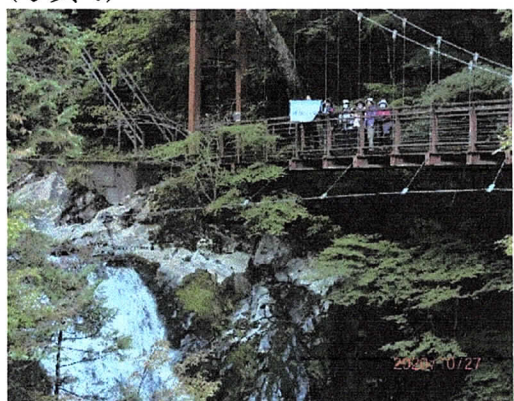
「光の滝」を横手に下る

(写真 6)



「光の滝」の名のとおり水しぶきが反射して谷間に虹が-----

(写真 7)



一番の見どころ「みたらいの滝」

- ・エメラルドグリーンに輝く水面を横手に進むと巨石の間から小さな滝が見え隠れする。最初に大きな滝は「光の滝」で水の流れる音も大きくなり、水しぶきがあがっている。 (写真 5)

- ・「光の滝」の水しぶきが舞い上がり、太陽光が屈折して岩間に虹ができていた。 (写真 6)

- ・大きな岩や滝の流れの絶景、一番の見どころである修験道の霊峰・大峯山を源流とする清らかな水が流れる「みたらいの滝」。マイナスイオンもたっぷり放出されているとのこと。 (写真 7)

(写真 8)



「哀伝橋」にて全員満足な笑み..

(写真 9)



(写真 10)



- ・「みたらいの滝」の前の「哀伝橋」から、記念撮影。7名参加であるが、6名？ 私は写真撮影。 (写真 8)
- ・岩場でも自然を満喫し撮影。私もやっと写真に参加。 (写真 9)

- ・休憩所でおやつタイム。 (写真 10)  
お菓子やミカンを食し、楽しい談話の一時。  
15分程度の休憩で、ここから折り返し、1時間かけて元の駐車場へ。 10時30分に駐車場へ到着。

(写真 11)



(写真 12)



面不動モノレール(片道 300 円)

(写真 13)



大峰山系を背に紅葉

(写真 14)



かりがね橋

(写真 15)



### ※「洞川自然研究路」編

・鍾乳洞や大吊り橋を楽しみながら森林浴ができ、道中には面不動鍾乳洞や「かりがね大吊橋」、「大原山展望台」などがある。自然の美しさと神秘が生きている吉野熊野国立公園である。

・「みたらい峡谷」から車で「洞川温泉センター」へ移動。10時45分出発し、「洞川自然研究路」の入口へ。

・まず最初に「面不動（めんふどう）鍾乳洞」入口へ。  
(写真 11)

・上へは、急坂徒歩とモノレールの選択があり、ここは迷わずモノレールを利用する。  
(写真 12)

・この先に「面不動鍾乳洞」があるが、本日は時間の都合でパス。私は、行きたかったなあ〜。(ノド)ツツク…

(参考)面不動鍾乳洞は、珍しいストロー鍾乳管（ストロー状の鍾乳石）鍾乳石が見られるとのこと。

・しばらく散策していると、期待していた紅葉が……なんと鮮やかな色と景色、目を潤してくれました。その先には、大峰山系が広がっています。  
(写真 13)

・景観を楽しみながら「かりがね橋」を通過。  
(写真 14)

(参考)(当地方では「いわつばめ」を一名「かりがね」と呼びます。洞川の「いわつばめ」は奈良県の天然記念物です。この吊り橋は「いわつばめ」の飛ぶ姿に似てスマートな処から、この橋名をつけました。長さ 120m 幅 15m 高さ 50m)と、橋の看板に記されていました。

・大原山展望台で休憩。展望台には灯光器がありどこを照らすのかなあーと楽しい会話で昼食。  
(楽しい会話で昼食会の写真撮影を忘れました)

・満腹した後、先に進むと小さな小屋があり、「ダラニスケ研究所」の看板があり、見学する。  
(写真 15)  
室内には、陀羅尼助の元となる原木?と大小の薬の模型?がありました。

(参考)陀羅尼助(だらにすけ)とは胃腸の薬です。

今から 1300 年前、疫病が流行し多くの人が腹痛に苦しんでいました。役の行者は苦しむ人々を助けるため、山中の黄柏(オウバク)の木のを皮をはいで、煎じ薬にして人々に飲ませ、疫病から救ったと伝えられ、これが陀羅尼助の起源であるとのこと。

(写真 16)



(写真 17)

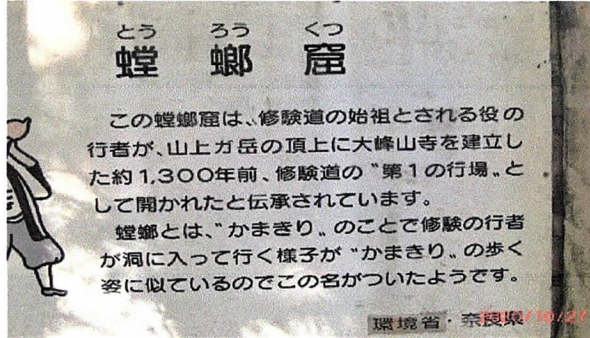


・景色の良い山間から川沿いを進んでいく。(写真 16・17)

(写真 18)

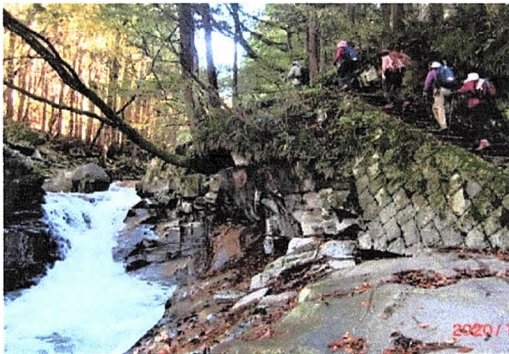


(写真 19)



・途中には「螻螂(どうろう)の岩屋」「こうもりの岩屋」と呼ばれるミステリアスなスポットもあり、修験道の開祖、役行者が修行した場所であったとのこと。

(写真 20)



かじかの滝

(写真 21)



・疲れがピークになったころ、「かじかの滝」に到着。近くに吊り橋があり、本日最後の記念撮影。

(写真 20・21)

・帰り道に「母公堂」へ立ち寄り、山行のお礼参拝する。

(写真 22)

(参考) 母公堂は女人禁制の境界口に佇むお堂。山岳修練者に会いに来た母親が危険な目に遭わないように、と庵を立てたことが始まりとのこと。

(写真 22)



母公堂

※最後に今回のコースは、紅葉と豪快な滝やエメラルドグリーン  
の川沿いを整備された遊歩道でゆったりとハイキングが楽しめました。  
帰りにうどんを食べる予定でしたが、定休日では食べられなかったことが、少し心残りですが…  
天気もよく心の洗濯ができ、秋を満喫しました。